

ネット新世界の社会構成と「災害ユートピア」ー人類史的過渡期の展開をめぐる諸論点ー
後 藤 康 夫 (福島大学)

はじめに

- リーマンショック後の理論展開
 - 宇野 知識社会(柴垣和夫)
20世紀アメリカを基軸とする新たな世界史像(馬場宏二)
 - 独占 グローバル資本主義からネットのアソシエーションへ(鶴田満彦)
グローバル資本主義からアソシエイト労働へ(長島誠一)
 - E・ホブズボーム 社会主義は失敗、資本主義は破産、では、次は何かーそれは共産主義
- 3・11のインパクト→別紙 理論学会用ペーパー参照
J.アレン『原爆帝国主義』大月書店、1953年。

本論

A ポスト冷戦のグローバルな編成(論点整理 その1)

1 三層構成(生産様式基準)

位置づけ	層	カテゴリー化の試み
① 編成基軸	ネット新世界	公開・共有・分散の生産様式(科学的労働) →止揚
② 編成替え・挟撃	先進国	資本主義の空洞化 ならず者集団と化する国家 →解体
③ 底辺	旧植民地・途上国 3農(農業・農村・農民)の解体	生産拠点の移転→G20 メガ都市・スラム化 グローバル原蓄

2 全体像

- ①「横倒しされた世界史」(大塚久雄)ーその冷戦下・60年代の「周辺革命・移行と平和共存」から、ポスト冷戦における「資本主義中心部の解体と止揚」の開始
- ②新たな人類史的過渡期の開始をめぐる理論的焦点
 - 1) ネットの基本性格→「冷戦と科学革命」
 - 2) 「世界の工場アジア」・BRICS の社会的基盤→アジア的基層社会 アジア的生产様式
cf 岩田弘『増補版 世界資本主義 Iー情報革命と新資本主義の登場ー』批評社、2006年。
五味久壽『グローバルキャピタリズムとアジア資本主義ー中国アジア資本主義の台頭と世界資本主義の再編ー』批評社、1999年。
 - 3) 大地からの人間の分離とグローバル化(移動・移民)→グローバル原蓄(関下稔、馬場宏二、和田幸子) グローバルシティ・スラム
参考文献
S・サッセン『グローバル空間の政治経済学』、岩波書店、2004年
M・デイヴィス『スラムの惑星』、明石書店、2010年

B ポスト冷戦のグローバルな蓄積・再生産構造(論点整理 その2)

1 金融(革命)の新たな役割

生産のみならず、年金まで含む労働力の再生産過程全体の包摂様式

Ex ネットの囲い込み・包摂様式としての知的所有権→新自由主義・市場原理の反撃

2 歴史的比定

仏革命前夜の過渡期;ケネー経済表—三大階級と「封建制の資本主義的再生産」

新たな人類史的過渡期;資本主義の共産主義的再生産

利潤のレント化→資本の寄生者・収奪者への純化

3 小活・展望;アメリカ論

① 世界;資本主義のアメリカ的段階—その成立と終焉の意義—

② 一国;アメリカ資本主義の歴史的段階(冷戦・カリフォルニア的段階)

③ ネット新世界と「共産主義のアメリカ的な道」(マルクス・エンゲルスのアメリカ新世界論と・レーニンの「ふたつの道」論)

おわりに

1 ネット新世界と新しい民主主義・変革主体→シアトルの闘い

2 3・11とネット新世界・シアトルの闘いの日本版の開始

→経済理論学会ペーパー「日本の戦後『新鋭』重化学工業段階の最終的崩壊と『災害ユートピア』の出現」